

令和 6 年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議（第 2 回）議事要録

- 1 日時 令和 6 年 7 月 19 日（金）午前 10 時～11 時 30 分
- 2 場所 むさしのエコ re ゾート
- 3 出席者 藤原委員、中西委員、木村委員、村井委員、野村委員、奈良委員、関口委員
- 4 傍聴者 1 名

5 議事要録

(1)はじめに

（事務局より資料 1 について説明）

- ・武蔵野市環境啓発施設運営会議(第 1 回)の議事要録の確認を行った。

(2)施設外へ向けた環境啓発の取組みについて

（事務局より資料 2 について事例紹介・意見交換）

○（委員より）対象は何年生なのか。

⇒(事務局)こちらで対象を決めているものではないが、出張授業は 6 年生の授業で声掛けをいただいた。桜堤児童館での出前講座は、対象学年は絞らずに自由参加である。

（藤原委員より「成蹊学園における環境啓発の取組みについて」の事例紹介）

- ・成蹊学園は 2018 年からサステナビリティ教育研究センターを開設し、それまで学園のなかでそれぞれが実施していた活動を取りまとめ、情報交換や外部への情報発信などを行っている。また、ユネスコスクールに認定されており、地域の ESD 活動拠点として活動。
- ・学園全体での取組み（けやき循環プロジェクト、サステナビリティ大賞、ESD 成蹊フォーラム）についての紹介があった。
- ・各学校、学校間での取組み（小学校でのこみち科、中学・高校での夏の学校、スクールダイバーシティ、大学のボランティア支援センターなど）についての紹介があった。

（事例紹介に関する意見交換）

○（委員より）林苑プロジェクトは雑木林だけなのか、ケヤキ並木の剪定枝の使い道についてなのか。

⇒(藤原委員) 林苑プロジェクトの「SEIKEI WOODS」は、中高生が中心で、中高エリアの林苑だけのものである。剪定したケヤキの枝は、加工してワークショップで使ったり、お箸などの製品にして販売するなどして使用している。

- （委員より）地域と連携して色々な取組みができれば良いと思った。
- ⇒（藤原委員）サステナビリティ教育研究センターに情報を集約するようなハブとしての役割を担っているの、そのような仕組みづくりができれば良い。
- （委員より）ユネスコスクールについて、府中の明星中学校・高等学校も認定されているが、学校間の協力や交流はあるか。
- ⇒（藤原委員）昨年、和歌山県のユネスコスクールと意見交換を行ったが、そのような企画は少なく課題と捉えている。

（奈良委員より「武蔵野市立小中学校環境教育に関する取組」の事例紹介）

- ・市内小学校における「市民科」（自分・学校・地域・社会の中から課題を見つけて、情報収集し解決方法を考え、さらには外への発信を通して、自立、協働、社会参画などの資質・能力を育てるための授業）について説明があった。
- ・このような探究学習では、教員の連携先が重要であるので、情報が一覧になっていると良いと考えている。

（事例紹介に関する意見交換）

- （委員より）現状、教員はどのように連携先を探しているのか
- ⇒（奈良委員）武蔵野市に長く在籍している教員への相談や校長などを通して得ることが多いと思う。また、理科専科教員は、市内教員と情報交換をしている。各学校の開かれた学校づくり協議会や地域コーディネーターを通じて情報を得ることも多い。
- （委員より）外部講師を招く際の費用はどうしているのか。
- ⇒（奈良委員）費用については、学校で予算を持っている。
- （委員より）学校同士、他校との交流はあるか。
- ⇒（奈良委員）セカンドスクールで現地の学校とオンラインでつないだり、招待して一緒に体験するなどの交流はあるが、日頃から学校をまたいでつながる事例は少ない。
- （委員より）学習の内容について、更に課題解決や、本当の環境問題に目を向けるなど、深掘りできればもっと良いと感じた。

（3）その他

（事務局より第3回会議予定について説明）

- ・第3回会議の意見交換のテーマは、「視察について」「開館からの振り返り」を予定
- （委員より）振り返りは重要だと思う。市が館を運営してきた意味や成果をどのように考えるか。また、限られた人員で効率化する場合も希望をもてるよう話せるとよい。
- （委員より）出前講座・アウトリーチについて、勉強会などを通して外部講師と連携すると良いのではないか。現在、出前講座などの事業はあるか。
- ⇒（事務局）アウトリーチは散発的に実施しており、本日の事例紹介も参考にしながら、現実的な仕組みづくりに向けて、今後いろいろな方と協力して進めていきたい。

以上